

「探す」楽しさ、いかがですか？

2009年11月8日 第2回3団体合同 ARDF 大会(新潟県阿賀野市)

三条 OLC
藤島由宇

かつて「FOXテーリング」と呼ばれていた、ロゲイニングやトレイルランニングよりもずっと前からオリエンテーリングの隣にある競技です。

■ARDFとは？■

「ARDFとは“Amateur Radio Direction Finding”の略称で、アマチュア無線の電波による方向探索競技です。

この競技は競技地域内に5台の無線送信機(TX)を隠し、このTXから発射されるモールス符号の電波を方向探知のできる受信機によって受信し、コンパスと競技用の地図を使ってTXの場所を探索しますが、あらかじめ決められた時間内に探し出した数とタイムで競う、知力と体力を必要とする競技です。」

…ARDFのウェブサイトにはこのように説明されています。すなわち無線を使ってコントロールを探し出すオリエンテーリングと言えそうです。

今回は全日本リレーの時にSIの借用でお世話になったARDF新潟の佐藤久さんのお誘いを受け、「第2回新発田・豊栄クラブ・ARDF新潟合同ARDF競技大会」に参加して参りました(クラブはアマチュア無線クラブのことで).

■ARDFの持ち物■

1 受信機



ARDFには「3.5Mhz帯部門」と「144Mhz帯部門」があります。今回は3.5Mhz帯の競技で、写真のようなコンパクトな受信機を使います。日本ではこのタイプの受信機は15年程前に生産が中止され、今は中国製の物か、国内のアマチュア無線愛好家の方が自作した物が使われ

ているとのこと。

競技時にはこの受信機にヘッドホンを繋ぎ、TXから発信される信号を聞く事になります。

2 コンパス



コンパスはオリエンテーリングで使うものと同じベースプレート型がよく使われているようです。

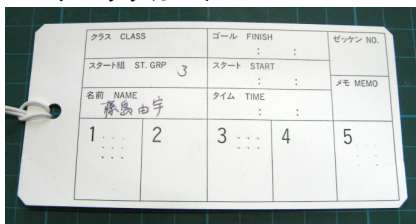
参加者の中には、写真のように受信機とコンパスを何かの器具で固定している方もおられました。その理由は後ほど…。

3 地図

地図はオリエンテーリング用のものがあればそれを用い、無ければ地形図を用いるとのことでした。

今回はOCADで作図された地図が使用されましたが、地図にはスタートとフィニッシュが描かれているだけです。

4 チェックカード



ARDFでもスタート前にカードが配布され、オリエンテーリングと同様にパンチをすることで通過証明となります。オリエンテーリング用のカードとの決定的な違いは、パンチ欄が5個と決まっている点でしょう。そしてもちろん防水紙が使われています。

近年は通過証明にSIを用いた競技会も開催されるようになり、運営の効率化に貢献しているようです。

この他に飲料水や、筆記用具やマップホルダーもあると便利なようです。これも後述します。

■いざ、競技開始■

スタートは3組に分かれて5分おきに行われました。

スタートしたら、まず5つの送信機から1分ずつ順に発信される信号を聞き、それぞれがどちらの方向にあるかを探ります。受信の際の重要なポイントとして、

- 1) 送信機に近づく程、聞こえる信号音が大きくなる。
- 2) 送信機のある方向に対して受信機が正対すると、聞こえる信号音が大きくなる。

という2点があります。

5つの信号を聞いたなら、その中から音が大きい(=近くに)TXを目指します。そこで更に受信機を回し、より音が大きく聞こえる向きを探り、その方向へ走っていきます。

ここで受信機にコンパスを取り付ける意味が出て来ます。すなわち、現在地から送信機のある方向を地図に正確に書き込むために、このようなアイデアが生まれたわけですね。固定器具は100円ショップで売られている「かもいフック」のフック部分を削り取ったもので、コンパスには2本のねじで固定されていました。

■不安…そして喜びへ■

スタートしてからは、まずは適当に東へ向かいました。そして分岐や交差点で立ち止まっては、5分ごとに最も大きく聞こえて来る信号音(この場合はTX1)を待ち、聞こえて来た方向を確かめ、地図に爪で方位を書き込んでいきました(筆記用具が無かったため)。

ARDFでは、時間の経過がとても早く感じられます。5カ所の送信機からは1分間ずつ順番に信号音が発信されるので、例えばTX1の信号音を1分間聞いたなら、次の信号音が聞こえるまで4分待たなければなりません。初体験の私はそれでかなり時間を取り、1個目のTXを見つけるまで約50分かかってしまいました。

しかし、聞こえてくる信号音がだんだんと大きくなっていくにつれて「おっ…近づいて来たっ！」というワクワク感が強まっていくのがなんとも気持ちの良いものでして、ここにARDFの魅力があると感じました。TXの間近に来ると信号音はかなり大きくなり、この時の「キター！」感は皆さんにも1度は味わって欲しいと思います。

■競技の後は豚汁反省会■

競技後は近くの公民館で反省会です。新発田クラブさん特製の豚汁を参加者全員でござそうになりました。



全員で豚汁なべを囲んでの反省会（新発田無線クラブブログより）

この反省会に「普及」のヒントを見いだせた気がします。すなわちこのように主たるイベントの後にも集まる機会を持ち、初めての方もベテランの方も一緒になってご飯を食べたり話をしたりすることが、「仲間作り」にとっても重要なのではないかと感じたものです。

■紹介！ARDF新潟■

新潟県は過去に国際大会（アジア・オセアニア大会）も開催されたほど、日本国内でも有数のARDFが盛んな地域です。全国高校生大会も必ず新潟県で開催される事になっているほか、全日本ARDF大会等で使われているSIシステムやカードはARDF新潟の所有している備品が使用されているほどです。

そんなARDF新潟の皆さんに、11月23日に三条市で開催した新潟県協会杯大会会場でインタビューを行いました。

藤島「なぜ新潟で高校生の全国大会が開かれるようになったのですか？」

佐藤さん「私が勤務していた高校で合宿を行った所、他校からも参加したいという声があがったのがきっかけです。イベントの運営が可能な団体も限られていましたのでそれなら…と手を挙げました。ARDFはオリエンテーリング以上に体力よりも技術のウェイトが大きく、体力勝負になりにくい点が無線部やパソコン部などに所属している高校生にも好評な点だと感じています。」

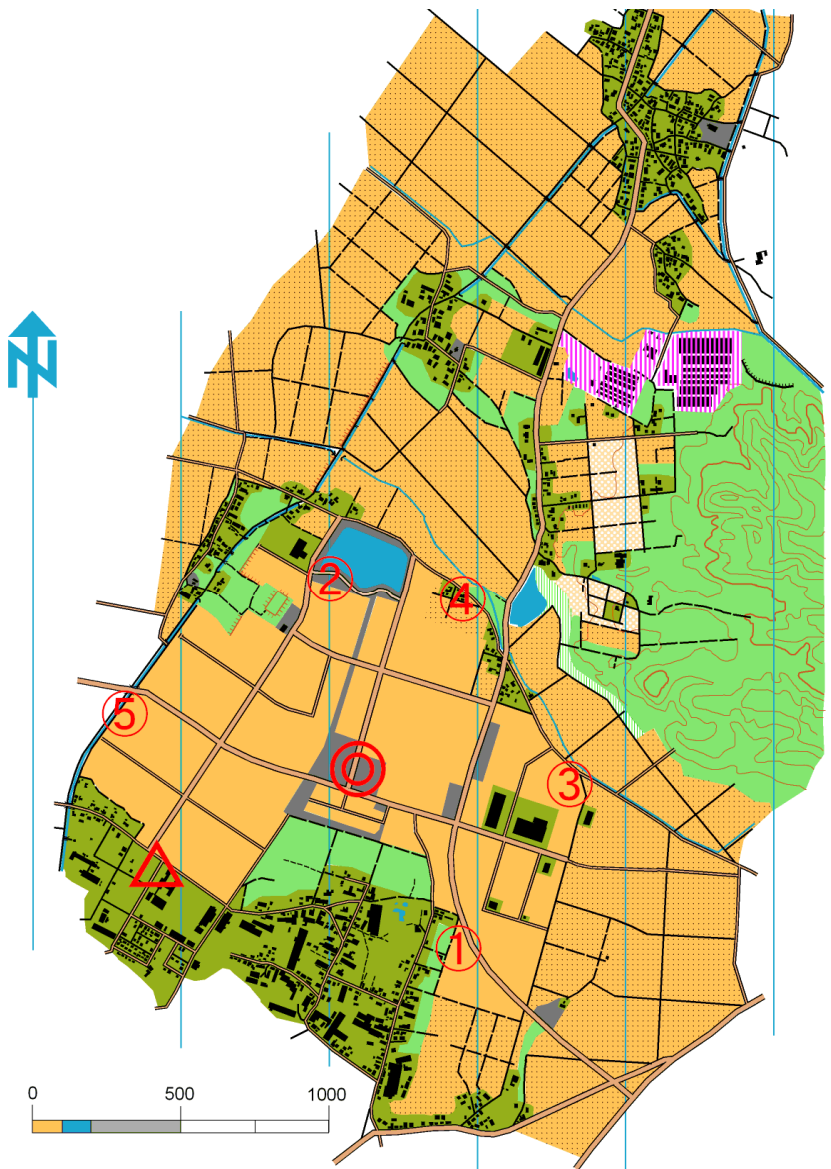
藤島「今後の展望を聞かせてください。」

丸山会長「やはり会員を増やしていきたいですね。会員が増える事で会に勢いが付きますから。ARDFを通じて高校生の諸君には生きていく中で向上心を持ってもらい、社会人の方には生きがいとしてもらえればとても嬉しいと考えています。」

「探す」楽しさが、ARDFにはあります。
（藤島由宇）



ARDF新潟の皆さん。左から佐藤久さん（事務局）、西原辰雄さん、石塚晶さん、丸山正さん（会長）（11月23日開催の新潟県協会杯大会にて）



今大会で使用されたマップ。もちろん参加者に配布されたものにはスタートとフィニッシュしか記されていない。